



小倉ロータリークラブ 週報

RIテーマ：“ロータリーは機会の扉を開く”

RI会 長：ホルガー・クナーク 氏
(所属：ドイツ、ヘルツォークトゥム・
ラウエンブルク・メルンRC)

地区テーマ：“日本のロータリー100 周年

「新しいロータリーは機会の扉を開く」 ”

地区ガバナー：古賀 英次氏(所属：柳川RC)

クラブテーマ：“OPEN THE DOOR TO CHANCE ”

会長 松永 浩 / 幹事 豊川 智彰



表紙写真(テーマ/福知山の山頂からの風景)

北九州で一番高い山、福知山(900m)に登りました。写真右下は、途中で咲いていた「さぎ草」です。頂上からの景色は360度の眺望で最高でした。遠くに見えるのは、皿倉山です。

【撮影：上野 禮一会員/令和2年9月21日/小倉にて】

例会場 リーガロイヤルホテル小倉 TEL 093 (531) 1121

《報告に関して、敬称略》

例会日 毎週金曜日 12:30～13:30

事務局 e-MAIL : kokura@2700rid.com

事務局 北九州市小倉北区浅野2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉2F

TEL (531) 1727 FAX (522) 4333

クラブ会報委員会 委員長：宮島 俊司

副委員長：城 健一郎

委員：篠原 烈、橋爪 政博、中村 学、大川 雅弘、甲木 正子

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日の例会 第3451回

・ロータリーソング “奉仕の理想”

・卓話

北九州市立八幡病院 院長

伊藤 重彦 氏

会長の時間

松永 浩 会長

本日は「褒め合う文化」についてお話しさせていただきます。最近、新社会人に仕事での悩みや不安を相談されます。どうも今の若者の悩みは理解しにくく上司に注意を受けると傷つきやすいような気がします。何故だろうと原因を調べてみると「褒めて育てる」教育方法に問題があることを知りました。20年ほど前に大流行した子育て方法ですが「日本の子供や若者は自己肯定感が低いから、もっと褒めて自信をつけさせないといけない。褒めて育てることで自己肯定感を高めることが必要だ」という考えから、教育現場でも推奨されるようになり、それが親の間にも広まり大流行しました。その結果、大人になると傷つきやすく、キレやすい、すぐ落ち込む若者が増えてしまったようです。「褒めて育てる」教育方法に関しては欧米での成功を参考にしたようです。しかし、現在では日本にとって「褒めて育てるとダメになる」という考えが伝えられています。欧米のように個と個が切り離され、義務を果たさない者や実力を発揮できない者は切り捨てられる父性原理での厳しい社会と、日本のように心理的一体感があり、相手を丸ごと受容する母性原理の社会とでは、ほめることの意味が違い、欧米は口ではほめても、能力を発揮できなければ小学校から留年があり、就職しても期待に応えられなければすぐにクビになる社会では必死に頑張ら

第3450回 例会 記録

10月2日(金) 普通例会

・国歌斉唱

・ロータリーソング “2700のマーチ”

・卓話

一般社団法人 日本スポーツコーチング協会

九州支部長 江口 真弓 氏

ご案内

伊井 SAA

先週、玉井名誉会員の密着取材でRKB毎日放送の撮影クルーが例会に入っていました。本日の夕方「タダイマ!」という情報番組(15時40分～19時)の中で放映されるそうです。

ざるを得ない。

日本のように能力を発揮できなくても留年もしなければクビにもならない社会では口でほめたりしたら心を鍛えることができない。伸びる子どもに育てるためには、傷つきにくく、逆境でも心が折れずに頑張れるように、子どもの心を強く鍛える教育に戻していく必要があるようです。しかし、「褒めて育てる」教育方法は20年以上前、当時の大人が選択して行った教育方法です。20代の若者に伝えてもかえって混乱を与えるだけで世代ギャップとなり、改めて教育をし直すことは困難です。私は「褒め合う文化」は素晴らしいことだと思います。どの世代間でも褒め合えばコミュニケーションはいい状態になります。人は皆「褒められることが大好き」です。褒め方にも方法があり、結果を褒めるとかえって相手は結果を出すことにストレスを感じ委縮してしまうようですから。結果よりも頑張りと努力を褒めるようにすればチャレンジ精神が養われます。家庭でも社内でも褒めることは自分自身もいい気持ちになるので私自身も心掛けたいと思います。皆様もコロナ禍の中、感染対策や倒産、失業者が増加し、自殺者も増えているようですので「褒め合う文化」を推進して笑顔の絶えない社会を目指して下さい。

幹事報告

佐竹 副幹事

・寄付のご報告です。北九州グランフィルハーモニー管弦楽団へ、特別寄付金として新型コロナウイルス支援金10万円を寄付いたしました。楽団よりお礼の言葉をいただきましたのでご紹介いたします。

「この度は、過分なる特別寄付金をいただきまして、誠に有難うございました。心強いご支援で、大変勇気付けられました。コロナ禍で7つの公演が中止となり、収入が絶たれキャリア継続も困難となりました。一方で12月13日にコンサートができることになりました！特別寄付金は、そのための楽譜の購入や、技術向上の準備に使わせていただきます。楽団の大きな財産となります！心より感謝申し上げます。チラシなど完成しましたら、お知らせ申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」

出席報告

大曾根 委員長

2020年7月1日：59名でスタート

	会員数	出席者数	マークアップ
当日の出席	67名	36名	—
先週の出席	67名	45名	17名

◆ゲスト 1名 (卓話者)

◆ビジター 0名

◆名誉会員 1名

・鈴木 清 氏

ニコニコ献金

児嶋 副SAA

4,000円 : 今年度累計金額 141,000円

辰巳 和正 君

①鈴木副市長、貴重なコロナ対策奮闘記の講演をいただきありがとうございました。

②丘みどりさんのデビュー15周年記念ベストアルバムが10月7日に発売されます。

③丘みどりさんが、明日3日にふるさとの姫路文化センターで半年ぶりのコンサートを再開します。

甲木 正子 君

西日本新聞社がラジオ番組「ファンファン北九州」を始めました。ナビゲーターは私です。詳しくは、本日も配りした記事をご覧ください。よろしくお願いします。

10月

お誕生日・結婚記念日

平野 委員

おめでとうございます

Birthday

鱒見 進一
宇城 照耀



Wedding Anniversary

平野由太郎
中村 文彦
南浦 忠義
柿木 孝文
荒木 英生

上野 禮一
田邊 雅一
原田 光久
藤澤 修司
松田 恵作



委員会報告

クラブ会報委員会

宮島 委員長

『ロータリーの友 10月号』の記事の紹介です。13ページに「10月は米山月間です」、と米山記念奨学会の記事があります。21ページの「大人の着こなし図鑑」の今回のテーマは、レディースジャケットでした。フィボナッチ数列とその黄金比のことと併せて、バランスの重要性が書かれてありました。

米山記念奨学委員会

寺澤 委員長

①本日、皆様のボックスの中に特別寄附金の封筒を入れさせて頂いています。今月は米山月間ですので、皆様のご協力をお願いいたします。特別寄附金につきましては、7月から12月に集まったお金を12月末に奨学会へ送金します。奨学会より領収書が届きますので、確定申告の時に所得控除にするか税額控除にするか有利な方を選択していただければと思います。

②10月16日には、米山記念奨学生の卓話があります。産業医科大学に通われているシン モンユエさんで、中国陝西省出身の方です。



卓 話

一般社団法人 日本スポーツコーチング協会

九州支部長 江口 真弓 氏

『アフターコロナの新たなビジネス界で

求められる人財とは

～スポーツコミュニケーションから見えた

成果を出し続けるチームの秘訣～』



私が所属している一般社団法人日本スポーツコーチング協会は、スポーツを通じて真の人材を育成することを目的とし、スポーツの指導者を中心に科学的なコミュニケーションを届けています。心技体のあるスポーツ選手がインテリジェンスを

備え、それがスポーツ界に浸透すると、日本のスポーツ界が劇的に変わり、日本の選手の活躍が、昨年のラグビーワールドカップのように世界中を驚かせる存在になるのではと考えます。最近では教育機関の関心も高まりつつあり、教育現場や部活動指導者への研修を通して、指導者の関わり方に対する子どもたちへの影響力についても、一緒に考える機会が増えています。

「心技体+インテリジェンス」の人財育成は、スポーツで成果を出すだけでなく、スポーツを終えた後のビジネスの世界や、スポーツに限らずあらゆる分野で活躍できる、社会で求められる必要な人財となっていくのではないのでしょうか。そのような人財を育成するために、スポーツの指導者は主体性を高めるコミュニケーションの方法を現場で取り入れています。具体的には、「質問」というツールを使って選手に考えさせたり、頭の中で考えていることを言語化させたりします。アウトプットさせることは、思考力や語彙力の向上にも繋がります。

多様性の時代の今、指導者に求められるのは、「選手一人ひとりの個性を、指導者がいかに発揮させることができるか」。画一的な時代の一斉指導から、個々の指導へと指導の在り方が変化し、指導者には選手一人ひとりの能力を引き出すための、より高い指導能力が求められています。

成果を出し続けているスポーツのリーダーが常に意識していることは「対話」です。「対話」とは、双方向のコミュニケーションのことで、「こうしろ、ああしろ」といった一方的な指示命令や、「それはこうするんだよ」と先に答えを与えるようなことはしません。対話の中で【問いの力】を活用し、選手自身が気づくよう、「相手の気づきを促す効果的な質問」を選手に投げかけているのです。スポーツのリーダーは、【問いの質が、思考の質や成果の質に繋がる】ことを知っており、そのためにリーダー自身も、日々質問の質を高める訓練をしています。



このコロナ禍において、当たり前だったことが当たり前でなくなってしまったことや、これまでのやり方が通用しなくなったこと、変化していかないといけないことなどは、スポーツ界でも同じです。成果を出し続けているスポーツのリーダーの共通点は、変化に柔軟に対応する力や、状況判断力、主体性、実行力などを持ち合わせています。1つの事実に対して、それをどう意味づけ、いかにポジティブに捉えるか。正解が無い中を、日々変わる状況に応じて判断し、その時の最善の方法を取り入れようとしています。ある日本代表チームのヘッドコーチは、練習ができなくなった状況を、これまで後回しにしてきた知識や教養を身に付けられるチャンスと捉えました。そして本来のフィジカルの時間は、コミュニケーションの時間に充てられ、一体

感も高まり、結果的にチームの底上げに繋がったと話しています。

スポーツのリーダーの実践事例が、ビジネス界で何か参考になることがございましたら幸いです。

第4回定例理事会 報告

<審議事項>

1. 出席免除会員の件（1名）… 承認

- ①天ヶ瀬 洋正会員：天ヶ瀬クリニック 院長
… 出席免除規定に達した為

<報告事項>

1. 名誉会員就任の件

中村 雄三 氏（陸上自衛隊 第四十普通科連隊長 兼 小倉駐屯地司令）より、就任の承諾をいただいた。

2. 10・11月の行事予定

10月・11月の例会及び行事予定

10月 《経済と地域社会の発展・米山月間》

2日(金) … 卓話 《普通例会》〔定例理事会〕

4日(日) … 地区ロータリーリーダーシップ研究会

ディスカッションリーダー研修会 Part1《地区行事》◎

形 式：オンライン

時 間：開会 9 時 30 分 / 閉会 17 時

出席者：佐竹副幹事

9日(金) … 卓話 《普通例会》

16日(金) … 米山奨学生の卓話 《普通例会》

17日(土) … 早朝清掃 《小倉駅前早朝清掃》◎

場 所：小倉駅前

時 間：6 時集合

23日(金)→25日(日) … ギラヴァンツ北九州応援
《親睦例会》

集合場所：ミクニワールドスタジアム北九州 南ゲート前

集合時間：14 時 30 分

会 費：会員は無料

ご家族・ご友人：1,500 円

(小中高 1,000 円)

24日(土) … 地区奉仕プロジェクトセミナー
《地区行事》◎

会 場：福岡ファッションビル

(福岡市博多区博多駅前 2-10-19)

又はオンライン

時 間：受付 9 時 30 分 / 開会 10 時 /

閉会 12 時 30 分

登録料：3,000 円

対象者：会長、社会奉仕委員、職業奉仕委員

30日(金) … 定款第7条第1節(d)により休会

11月 《ロータリー財団月間》

1日(日) … 豊前 RC 創立 60 周年記念式典

《他クラブ行事》

場 所：グランプラザ中津ホテル

時 間：14 時 30 分 受付/15 時 30 分～17 時 式典/
17 時 30 分～19 時 40 分 祝宴

会 費：10,000 円

出席者：松永会長、豊川幹事、杣副会長、
佐竹副幹事、原田(光)会員

6日(金) … 会員卓話 《普通例会》〔定例理事会〕

13日(金) … 卓話 《普通例会》

15日(日) … 地区ロータリーリーダーシップ研究会

ディスカッションリーダー研修会 Part3《地区行事》◎

形 式：オンライン

時 間：開会 9 時 30 分 / 閉会 17 時

出席者：佐竹副幹事

20日(金) … 会員卓話 《普通例会》

21日(土) … 早朝清掃 《小倉駅前早朝清掃》◎

場 所：小倉駅前

時 間：6 時集合

27日(金) … 財団関係の卓話 《普通例会》



米山記念奨学会「特別寄付金」



例会当日寄付者

・松永 浩	・村上 充生
・辰巳 和正	・原田 鉄司
・杣 巖	・天ヶ瀬洋正
・松本 篤	・渡辺 茂

合計	2020～21 年度累計金額
92,000 円	198,000 円

次回例会予告

10月16(金) 普通例会

・ロータリーソング “我等の生業”

・米山記念奨学生の卓話

産業医科大学 医学研究科 博士四年生

シン モンユエ 氏

『人生の貴重な経験—日本の留学生活』